

長編ドキュメンタリー映画

# Do You Know What My Name Is ?

クリーブランド国際映画祭・正式上映作品  
ローカル・ヒーローズ部門ノミネート  
アメリカンドキュメンタリー映画祭・正式上映作品

## ■ 2013 年 4 月、2 つの国際映画祭で上映が決定！

### 日本の脳科学研究から生まれた感動と希望の「長編ドキュメンタリー映画」

2013 年 4 月 3 日から開催されるクリーブランド国際映画祭(米国オハイオ州)と、同年 4 月 4 日から開催されるアメリカンドキュメンタリー映画祭(米国カリフォルニア州)において、仙台放送が製作した初の長編ドキュメンタリー映画『Do You Know What My Name Is ?』(ドゥー・ユー・ノー・ホワット・マイ・ネーム・イズ)が主要な賞を競うコンペティション部門の候補作に選ばれ、正式上映されることになりました。この映画は、東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授の研究結果をもとに日本で生まれた「読み・書き・計算」と「対面コミュニケーション」等によって認知症の改善を目指す取り組みを、仙台放送が約1年間、アメリカを舞台に取材したものです。この映画では、生きる気力さえ失いかけていた認知症の高齢者たちが、笑顔や自分自身を取り戻していく様子が描かれています。日本の脳科学研究から生まれた「感動と希望の物語」を、超高齢社会に向かう全世界に向けて発信したいと考えております。

## ■ あらすじ

“Do you know what my name is ? (=僕の名前を知っていますか?)”  
こう尋ねるのが僕の日課になったのは1年前。相手は僕の3倍もの人生を  
生きるおじいちゃん、おばあちゃんたちだ。僕の名前はジョン。アメリカ・  
クリーブランドの高齢者介護施設で働いている。施設で暮らす高齢者の  
平均年齢は 80 歳。彼らの多くは認知症を患いながら静かな余生を過ご  
している。でもこの1年、みんなが挑戦してきたものがある。それが日本の  
脳科学者・川島隆太教授が開発した認知症改善を目指す取り組みだ。  
エブリン(94)は、認知症と診断されて2年。当初は自分の名前も書けず、  
会話も噛み合わなかったが、4カ月後、趣味の編み物を始めるほどにな  
った。笑って、ジョークをとばし、おしゃれを楽しみ、時には恋愛のアドバ  
イスもくれる。皆、出会った時よりも、美しく、そして、元気に変わってきた。

アルツハイマーという名の病が人類社会に登場して1世紀。未だ特効薬も  
ないこの病に、人々は記憶の空白に戸惑わされ、生きる気力さえも奪われ  
てきた。そんな病と闘う人間にとって「幸せな最期」とは何なのだろうか？  
果たして僕は、みんなが天に召されるとき、自分自身を取り戻した笑顔  
を見ることができるのだろうか――

監督:風間直美/太田 茂

プロデューサー:太田 茂

脚本:武田浩/ロジャー・パルバース

技術協力:コスモスペース・オブ・アメリカ

制作協力:共同テレビジョン

制作・著作・配給:仙台放送

2012 年/83 分/HD/16:9/カラー/日本/ドキュメンタリー

公式 HP (<http://doyouknow.jp>)

## ■ お問い合わせ

仙台放送 (広報部 佐藤)

(企画制作部 澤田・太田)

Tel:022-267-1240

Tel:022-267-1297



# 全 ての人々に 観ていただきたい映画です

東北大学加齢医学研究所  
スマート・エイジング国際共同研究センター長

## 川島隆太教授



この映画は、私たちが日本で開発した認知症の患者様の認知機能を持ち上げることができる認知介入療法『学習療法』の効果を、初めて海外で検証したドキュメンタリーです。私たちは「読み・書き・計算」を使って、認知症の高齢者の方々の認知機能が上がり、生活機能が改善できることを日本で証明してきました。しかし、この効果が、日本人だけのものなのか、世界中の人々に使えるものなのかについては疑問が残っていました。そこで今回は、米国の施設にご協力いただいて、教材を英語化し、アメリカ人にも同じ効果があるかどうかを検証するトライアルを行いました。その中で、アルツハイマー型認知症の方々を1年以上取材していただきました。映画をご覧いただければ分かりますが、激的な変化が起こります。日本から出たオリジナルの方法が、認知症の患者様との関わり方によっては、世界中の認知症の患者様とご家族に幸せを届けることができる、と自信を深めることができました。

今回驚いたことは、コミュニケーションの方法が、アメリカ人のほうが、日本人よりも上手かも知れないということです。これはサポーターの方々が非常に上手に関わってくださっていたこともあると思います。また患者様の認知機能の改善度合いも、日本よりも少し強いかもしれないというイメージを持ちました。現在、解析を行っていますが、もしかすると遺伝子多型と呼ばれる遺伝子の状態の違いが影響しているのかもしれない。

アルツハイマー型認知症は、「いずれは死にいたる病」というのが、世界的な認識です。しかし、今回のトライアルで、たとえアルツハイマー型認知症になっても、きちんとケアをすれば、良くなる可能性があるのだ、ということを経験した方々に知っていただけたのではないかと思います。

この映画は、アルツハイマー型認知症で苦しんでいらっしゃる患者様、ご家族の皆様、ご支援いただいている皆様だけでなく、全ての人々に観ていただきたいと考えています。映画の中の登場人物の顔の表情、着ている服装や髪型の変化にも注目して下さい。人としての生活がどんどんよみがえってくるということを、この映画を通して感じていただけたと思います。